



—北アフリカ地域ニュース—

リビア情勢：カッターフィ大佐側部隊の攻勢

主席研究員 中島 勇

リビアでの内部抗争は、新たな段階を迎えつつある。中部地域での戦闘では、カッターフィ大佐側部隊が優勢の様相であり、東部地域への攻撃が可能な状況になりつつある。

カッターフィ大佐側部隊は、3月15日に中部のアジュダビーヤを奪回したと発表した。アジュダビーヤへの攻撃は14日から本格化した模様。同都市は、反政府派の拠点であるベンガジまで約150キロの位置にあり、ベンガジ防衛のためには重要な拠点といわれる。16日、カッターフィ大佐の次男セイフルイスラムは、48時間に反政府勢力を制圧すると自信を見せている。報道では、東部地域の住民が、エジプトに逃げているとの報道もある。

他方、反政府勢力に対する国際支援の機運は高いが、具体化していない。3月初めからリビア国内に飛行禁止地域を設定することが議論されている。3月12日、アラブ連盟は、国連に飛行禁止地域設定を要請した。15日、レバノンなどが、飛行禁止地域設定を含む決議案を安保理に提出し、安保理が協議を開始した。ベンガジの反政府勢力は、国際社会の介入を要請している。市民保護の必要性は国際社会の共通認識であるが、欧米諸国、NATO加盟国、安保理メンバー国の中で、温度差や思惑の違いがあり、議論はあるが結論が出ない状況が続いている。